

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年11月6日

【評価実施概要】

事業所番号	4070801875
法人名	有限会社 涼風
事業所名	グループホーム ウイング
所在地 (電話番号)	福岡県福岡市東区原田4丁目16-1 (電話) 092-629-5100

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成20年10月28日	評価確定日	平成20年11月17日

【情報提供票より】(20年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15人	常勤	14人, 非常勤 1人, 常勤換算 14.4人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	3階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000 ~ 50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	200,000円	有りの場合 償却の有無	美装代、破損代差引き残戻却	
食材料費	朝食	310 円	昼食	470 円
	夕食	470 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	4名	要介護2	8名		
要介護3	1名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 78.9歳	最低	63歳	最高	89歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ももち浜クリニック ・ 前田歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

設立者である法人の代表者が家族を介護したいとの思いからホームを立ち上げた。基本方針である「私達はご本人の尊厳を守り、安心、安全に暮らし、私達はホームと地域とのふれあいを大切にします」この二ヶ条に基づき開設より利用者のよい暮らしと地域交流に努め、できる事から実施するよう努力をしている。ホームは家庭的な雰囲気でありユニット間の交流があり、管理者、職員共に全ての利用者の把握ができています。職員同士が協力し合い、利用者の方々の暮らしが安定したものになるよう取り組んでいる。その中で暮らしている利用者の表情は明るく、和やかな会話や笑顔が印象的である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価での改善点は職員会議で話し合いができることから積極的に取り組み、改善をしている。また、運営推進会議において報告し意見や助言を頂き関係者全員で取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価に関して管理者が職員に説明し、項目を職員に記入してもらい管理者がまとめた。自己評価を確認することで、ホームの実情やサービスを提供する上での気付きになりサービスの質の向上になると捉えている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>民生委員、老人会代表者、地域包括支援センター担当者、家族代表、利用者代表、職員が出席し、ホームの行事や現状等の報告や家族からの意見の聞き取りを行いサービスの向上に繋げている。会議の中で、地域との交流を深める為の話し合いや認知症の理解をしてもらおうとビデオ鑑賞を行い、グループホームを知ってもらい取り組みを行っている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法、運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族が面会に訪問の際には管理者、職員が意見や要望を聞き取りミーティングで話し合い解決に向け取り組んでいる。運営推進会議には家族代表が出席し意見、要望を出し検討し解決、改善をしている。また、ホームの玄関に意見箱を設置し公的機関の窓口の掲示も目に付きやすい場所に掲示している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との関連(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に入会はしていないが、運営推進会議等に於いて入会したいとの意向は示している。地域の小学校のサイクル活動に協力をしホームとしてできる事に取り組んでいる。近隣の商店に利用者と共に買い物に行き馴染みの関係を作る努力やホームの夏祭りに地域の方を招待し年々来訪する人が増えている。今後も、できることを続け地域との関わりを深めていきたいと願っている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	開設当初に管理者、職員全員で話し合い作り上げた基本方針と心やさしくおだやかに、のんびりと自分らしく」を理念とし日々の業務に取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの目に付くところに掲示し、いつでも確認できるようにしている。毎朝の朝礼で唱和し基本方針、理念を念頭に置きサービスを提供している。また、日頃より管理者は職員に理念を説明し、職員間でも利用者への対応が基本方針、理念に沿ったものか話し合っている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には入会していないが、徐々に地域との交流が増えている。小学校のリサイクル活動に参加し、ホームの夏祭り地域の方を招待しホームを知ってもらい取り組みを行っている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の項目を職員とともに話し合い、意見を出し合った。改善点に於いても職員会議で話し合い改善に向けて取り組んでいる。運営推進会議にて報告し出席者と共により良いホーム作りの為に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月～3ヶ月に1回定期的に開催している。出席者は地域包括支援センター担当者、民生委員、老人会代表者、家族代表、利用者代表、管理者、職員等で、ホームの行事や現状の報告、民生委員から地域との関わりを深める為の提案を頂き、よりよいホーム作りに取り組んでいる。		

グループホーム ウイング

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上不明な事柄があった場合は市の担当者に相談している。また、ケースワーカーとの関わりもあり、利用者がより良い生活ができるよう連携を図っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している利用者があり、管理者は職員に説明し、職員は概ね理解している。パンフレットを玄関に置き、いつでも必要に応じ活用できるようにしている。		
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に利用者の状態や近況報告を行っている。月に1回の請求書送付時に利用者個々の状態を文書にて報告している。預かり金に関しては帳簿と領収書を確認してもらいサインをもらっている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族からの意見、要望を聴き取り職員会議にて話し合い対応している。ホームの玄関に意見箱を設置し、いつでも意見を表出できるようにしている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での異動は必要に応じて行っているが、ユニット間での交流、協力体制が取れているため、利用者へのダメージは殆ど無い。離職による引継は1週間研修を受け、その後はホームで利用者に関わりながら利用者馴染みの関係を作るよう他の職員が配慮している。		

グループホーム ウイング

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	採用に関しては性別や年齢等条件は無い。採用する職員の経験や知識、特技を日々の業務の中で活かせるよう取組んでいる。		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取組んでいる</p>	ホーム内で勤務中での利用者への対応について管理者は職員に指導、助言をしているが、外部研修に参加する機会が無く広く学ぶことができていない。		学ぶことは外部研修に限ったことではないので、ホームが資料を取り寄せたり講演に参加する等で何らかの形で学習する機会を職員に作ることを望まれる。
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	外部研修の案内をし参加している。参加後には報告書にて内部研修を行っているが、研修や学習の年間計画を立てておらず、学ぶ機会が少ない。		月に1回の会議を開いているが、研修の機会が少ない。ホームの更なる質の向上と職員育成の為、何が必要か、何を学びたいか等検討し年間に必要な研修の計画を立て職員同士も研鑽するよう取組んでいただきたい。
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	グループホーム協議会に加入し、勉強会等職員も交代で参加している。ホーム間の見学会も予定されており職員同士の交流の機会も確保されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅訪問、入院先へ出向き情報収集と顔見知りになるようにしている。本人、家族の見学、体験利用をしてもらい馴染めるよう工夫をしている。		
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている	利用者の昔の苦労話を聴き、ケアする側が利用者の気持ちになること、利用者の立場になり理解を深めており、感情の行き違いがあってもお互いが素直に認め合える関係である。料理や選択方法の知恵を利用者から伝授してもらい、職員が学び寄り添って暮らしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話から情報を収集し、どのように暮らしたいか聴き取っている。本人から聴き取ることが難しい場合は、家族からの意見や希望を聴き取り、本人の表情、行動から把握している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の状態を確認しながら本人、家族と話し合いを行いまた本人との会話から意向や希望を汲み取り計画を作成している。主治医からは助言を頂き計画に反映させている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しと状態の変化により見直し、気づきをミーティングにて職員全員で行っている。また、家族の要望や主治医の意見を参考にしている。毎日目標達成のサービス内容をチェック表にて確認しモニタリングの元としている。		

グループホーム ウイング

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望によりできる事は支援しており 受診の付き添い等希望する病院受診の支援を行っている。家族が希望すれば宿泊も可能である。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望にてかかりつけ医は其々であるが、職員同行にて受診し家族へ報告している。協力医の2週間に1回の往診にて利用者の健康管理を行っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者、家族に個別に話し合いはしていないが、必要に応じ対応している。		利用者、家族がより安心して過ごせるようホームとしての方針を明らかにし全職員が周知し家族へ説明することが望まれる。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人格を尊重し言葉使いや対応等配慮している。個人記録は収納ケースに入れリビングに置いているが個人名が見える。また、事務所に個人情報の解る物が目に付きやすい場所にある。		常に記録をしている為、リビングに個人記録を置いているが、事務所に保管し必要な時に持ち出すようにして頂きたい。個人情報の確保の観点から、個人情報は目に付かない場所に移動し、ホームで使用している利用者の写真や個人名の掲示等に於いて本人、家族から同意書等を交わす等徹底することが望まれる。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れはあるが、強制するものではなく本人のペースに合わせて過ごせるように支援している。散歩や手芸等希望によりできている。		

グループホーム ウィング

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや後片付け等本人のできる事を職員と一緒にやっている。また、利用者と職員が同じ時間に同じものを摂り、何気ない会話があり家庭的な雰囲気である。行事やバイキングの時は2ユニットが合同で食事をしにぎやかに食事の時間を過ごしている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各ユニットで隔日に入浴日を設けているが、本人の希望で入浴したい日に入浴できるよう支援をしている。入浴を拒む利用者には、職員がさりげなく意欲が出る言葉かけを行い出来る限り入浴するよう工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後片付けや花の水遣り、プランターの花の植え替え等できる力を発揮し役割がある。また、特技を活かした手芸等楽しみながら作品を作っている。1週間に1回はドライブに出かけ季節を味わえるよう支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や近隣の商店への買い物等利用者の希望や要望にて支援している。また、あまり出たがらない利用者へは建物の外で日光浴を一緒にする等生活のメリハリをつける工夫をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夕方から早朝までは施錠するが、日中は鍵は掛けない。利用者の行動を職員が見守り、利用者の安全に気配りしている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に2回定期的に夜間想定を含め消防署立会いの元避難訓練を実施している。災害時のマニュアルを目に付く場所に掲示し即座に行動できるようにしている。法人代表者を通じ地域住民に災害時の協力要請をしている。		

グループホーム ウイング

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	宅食配達の事業所から食材を宅配してもらい、1人あたりのカロリー、栄養バランス等計算もしてもらっている。利用者個々に食事摂取量の記録を付け健康チェックを行い、水分摂取に関しては1日に定期的、随時の摂取にて支援し必要に応じ記録している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	段差の無い玄関には椅子が置かれ利用者が外出しやすいうように配慮しており、リビングにはソファにてくつろげるスペースがある。壁面には絵画が飾られ目で楽しむことができる。また、テレビ等点けたままにせず、時間により利用者に馴染みの音楽を流し時間を楽しむ工夫がされている。浴室、トイレ等も清潔が保たれている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用していた使い慣れた家具や鏡台、その他本人が愛用していたものが部屋に置かれ居室の入り口には本人の好みの暖簾がかかっていたり、本人の、生活が入所前と変わらないよう配慮している。		